

2012年9月20日 Vol.0066

「検察肅正」鼎談 「検察に狙われた男たち」

鈴木宗男 × 堀江貴文 × 三井環 ③

特捜部に狙われた男たち—自らの身に降りかかった無実を訴えるため、検察と戦い続ける3人が集まった。政治家、起業家、元検察官とそれぞれの肩書は違えど、目的はひとつ。まずは堀江氏と三井氏の二人で侃々諤々の議論が始まった—。

-
- 検察の横暴を止めるのは法務大臣の仕事
 - 自分たちがリーダーだという検察の思い上がり

■検察の横暴を止めるのは法務大臣の仕事■

堀江：

検察の勝手なルール、自民党政権と裏で手を握った結果、政界に切り込めなくなったから経済界に行こうとなってしまった。それで僕もやられたんだと思いますが、それってなんか怖いことですよね。

鈴木：

私もライブドア事件を見ていて、堀江さんはシナリオありきでやられたな、と思いましたよ。

堀江：

何がひどいかって、ボクだけならまだしも、株主がいっぱいいたじゃないですか。道連れに15万人の株主が大損してしまいました。地獄へ道連れじゃないですけど、それってかわいそうだし、そこまでやる必要なんてないですよ。ライブドア事件をやろうとすれば、こうなってしまうことは検察も分かっていたはず。それなのになんでやろうとするんだって。

三井：

検察の思い上がりですよ。何でもできると思っているんですよ。

鈴木：

東京地検の特捜部の特捜部長が就任会見などでよく耳にするのが、「巨悪を絶つ」。頭から政治家や有名人をやれば、自分たちの出世に繋がるだとか、この世の支配者になれるだとか本気で思っている。まさに思い上がりですよ。

堀江：

じゃあ、検察の横暴を止めるには誰が動けばいいんですか。

鈴木：

1番大事なのは(法務)大臣がしっかりすることなんです。本来、政治がしっかりしていればピシッとやれる。そのためには、やっぱり世論ですよ。三井さんの勇気ある告白、堀江さんの闘う姿勢、そういったもので世間に「検察がおかしい」という声を伝えていかないといけない。当然私も、最後まで闘っていきますよ。

堀江：

最後に、今後、検察はどうあるべきなのか、自分ならこうする、といった話をさせてください。

三井：

私は1点だけです。裏ガネ問題を法務検察が国民に謝罪する。使った金を返す。そのためには先に言った法務委員会での証人喚問と行政上の指揮発動の二つの方法しかない。1人じゃできない。鈴木議員1人の力でも、私の力だけでも実現できない。多くの風が吹かない(世間の支持)と。

鈴木：

冤罪をなくすには取り調べの可視化を導入しないといけない。検察は全面可視化を嫌がっていますが、それであるがゆえにやる意味があるんです。被疑者の可視化よりも参考人、証人の可視化が何よりも必要だと思っています。取り調べでは検察によって彼らは誘導されてしまう。

堀江：

でも、可視化を義務付けても検察はなんだか言い逃れしそうですよね。

鈴木：

ですから全面可視化なんです。1部可視化ではその可能性がありますから。映像と音声、全部記録として残しておく。グローバルスタンダードに立って欧米並みに可視化をすべきです。

■自分たちがリーダーだという検察の思い上がり■

堀江：

検察に関しては、捜査権限に加えて起訴権限まで持っている。日本では逮捕されたら犯罪者扱いです。ボクの偽らざる実感ですが、長い月日をかけて世間に浸透しているその認識を覆すことは本当に難しい。個人的な意見としては検察の独自捜査権限を剥奪すべきだと思います。あるいは、形だけでも検察庁のほかに起訴できる組織を作るなりして、機能するようにしてほしい。起訴権限を独占させるのは危険だし、勘違いを生む要因だと思います。

あと、これは言わせてください。経済検察の危険性です。僕は生きた会社をやって何千人の社員がいて、何十万人の株主がいた。そんな上場企業に検察はいきなり入ってきて潰してしまう。さすがにちょっと乱暴ですよ。そんなことができてしまうのは、危ないなど、百歩譲って、経済活動はカネ儲けのためにやっているのは事実だから不正をしたら罰金で済ませればよいと思うんですよ。それなら株主も被害を受けないですし、経済におけるルール違反は殺人を犯したのとは違うんですから。

鈴木：

検察は「この国のリーダーは俺たちだ」という間違っただけの価値観を持ってしまっているんですよ。だからどんどん進んでしまう。

三井：

そうです、勘違いのままにね。

堀江：

厚生労働省の村木(厚子)さんの事件もボクが聞いている限り、ひどい話です。あれほど騒がれた長銀事件だって結局、無罪判決ですよ。あの方たちの人生は、特捜部に逮捕されてしまった事で、言い方は悪いですけど終わってしまってますよ。

三井：

無罪を言い渡されたことを国民の多くは知りませんからね。

鈴木：

捕まれば、イコール犯罪者。私も逮捕されたときに参考人に呼ばれた人が、「鈴木はもう終わったから。復活はない」と言われたんです。私は復活してこういう話す機会を得ているからいいけど、世の中には間違った捜査で逮捕され、名誉を失った人がいるはずですよ。そんな方たちのためにも、われわれ検察と戦っていきましょう。

三井：

もちろんです。

堀江：

僕もやりますよ。宗男さんにも三井さんにもご協力いただいて、声をあげていきましょう。

(双葉新書 「権力」に操られる検察より 終わり)

著者：三井環（元大阪高検公安部長）